



特集
最上川を
往く

最上地方の歴史と文化

豊かな里山と 厳しい冬が

自治協働の心を育む

山形県北東の内陸部、鳥海山や月山、神室連峰など高く険しい山々に四方を囲まれた新庄盆地。そこに築かれた8市町村で構成されるのが最上地方だ。緑深い里山と清流、広がる田園、そして厳しい冬——。四季折々でさまざまな表情を見せる自然とともに、この地の人々は歴史を紡いできた。

文 ● 日比忠岐 (エディター)

江戸時代を通じて 独特の文化を発展させる

最上地方は江戸時代はじめまでは最上氏が治める山形藩の一部だった。1622年(元和8)の「最上騒動」

と呼ばれるお家騒動の結果、最上氏は改易され、代わって同地方に封じられた戸沢氏により新庄藩が創設されたことが、現在の新庄市を中核とした新庄都市圏の発端である。

新庄藩は明治の廃藩置県まで継続し、その間に独特の藩政文化が育まれていった。その結果、現代でも山形弁とはやや趣が異なる新庄弁をはじめ、同地方は山形県内でも独特の文化をもつ土地として知られている。

豊富な森林資源が 生活の糧をもたらす

現在の同地方は中核都市である新庄市をはじめ、最上町、金山町、舟形町、真室川町、鮭川村、大蔵村、戸沢村の1市4町3村によって構成されている。周囲を1000m級の山々に囲まれた盆地にあることから、森林面積が非常に広く、地域の総面積のおよそ8割が森林だ。この豊かな森林を活用した林業が盛んで、同地方は県内の丸太生産の4割を占める。また、県内最大のキノコ類の産地であり、山菜類が豊富に収穫されるなど、森林は地域住民に貴重な生活の糧をもたらしている。

一方、年間を通じて寒暖の差が激しく、特に冬は地域一帯が大雪で閉ざされることも珍しくない。

鮮やかな緑が美しい前森高原の風景。(写真提供:最上町)

方に触れる機会が多いためか、この地方の住民には自治協働の精神が強い。住民みんなで力を合わせ、より多くの自然の恵みを楽しみ、自然の厳しさに立ち向かうという意識が「生きる知恵」として育まれてきたのだろう。

住民の結束の強さは閉鎖性につながりがちだが、この地方ではそうした傾向は見られない。古くから最上川舟運の交通の要衝として発展してきた側面もあり、「もてなしの文化」が根付いている影響だろう。

歴史によって培われた団結力と開放性。それが、この地方を創生するキーワードになりそう。



森林資源を活用したバイオマス産業を推進 最上町

特産品 ● そば、アスパラガス、ヤーコン
人口 ● 8702人 面積 ● 330.37km²
特徴 ● 農業・畜産のほか、温泉やスキー場などの観光も盛ん。



新庄まつりで名高い最上地方の 中枢都市 新庄市

特産品 ● 米 人口 ● 3万6481人
面積 ● 222.85km² 特徴 ● 260年以上の伝統を誇る新庄まつりには毎年40万人以上の観光客が訪れる。



若あゆと縄文時代の遺跡の里 舟形町

特産品 ● あゆ、ラ・フランス、山ぶどう
人口 ● 5518人 面積 ● 119.04km²
特徴 ● 天然の若あゆ釣りや縄文時代の土偶が発見された遺跡で名高い。



100年先を見据えた美しいまち並みづくり 金山町

特産品 ● 米、ニラ、杉 人口 ● 5680人
面積 ● 161.67km² 特徴 ● 地元の金山杉と白壁を用いた金山住宅をはじめ、景観施策に意欲的。



清流と山の恵みとともに生きる 「キノコ王国」 鮭川村

特産品 ● なめこ、シイタケ、マイタケ
人口 ● 4226人 面積 ● 122.14km²
特徴 ● キノコ類の生産が盛んで、とくに良質のナメコは全国的に人気。



林業が盛んな山形県の北の玄関口 真室川町

特産品 ● 米、たらの芽、梅 人口 ● 7999人
面積 ● 374.22km² 特徴 ● 古来より林業のまちとして栄え、巨木の里としても知られる。



最上峡の雄大な自然が美しい 戸沢村

特産品 ● エゴマ、ハブリカ、そば 人口 ● 3354人
面積 ● 261.31km² 特徴 ● 最上峡の雄大な自然が楽しめる最上川舟下りが魅力。



最上川水運の積出港として 繁栄する 大蔵村

特産品 ● トマト、そば 人口 ● 4691人
面積 ● 211.63km² 特徴 ● 日本一の棚田百選に選ばれた「四ヶ村の棚田」など、美しい自然の景観を楽しめる。